



春の雷我が青春の大江かな  
 かくれんぼ春野にかくれどころなし  
 ものの芽の我が方寸に満ちにけり  
 春キャベツ揉むやひらめく突破口  
 木の根明く無縁仏のごと林  
 白波の手をつなぐやう雛祭  
 蠶や肩竦ませて嶽並び  
 初桜まぐれの力疑はず  
 庫裡に干す大き俎板涅槃の日  
 流木は木霊の木乃伊春を待つ  
 耕耘機古女房の如きかな  
 雪霏々と大鍋で焚く鍋こわし  
 鴨帰る川は立ちどころに眠し  
 雪解風仲人口といふ言葉

ミサंगाをきつく結はへて競漕す  
 篠遠早紀

春の蜘蛛なり全身の好奇心  
 ゲルひとつ赤子眠るや蠶ぐもり  
 囀や一直線の脳神経  
 料峭や河原の石は皆羅漢  
 小さき闇携へて藤ぶら下り  
 サンマロや黒目覆える春の海  
 日を好む雪割一華も夏眠する  
 類齢の俘虜冬蜂に然も似たり  
 われもまた菌根菌や春兆す  
 ヒンメリの微かなそよぎ日脚伸ぶ  
 春嵐涙目隠し前へ前へ  
 春の駱駝正座のごとく座りけり

生真面目じゃ通れぬ穴を子持鯊  
 白魚の水のからだを掬ひけり  
 尊厳死そうではない死牙返る

田村道子  
 金子圭子  
 増田義幸  
 橋本幸篤  
 手島 互  
 二木 暖  
 土屋 隆  
 百瀬石涛子  
 高田尚文  
 山崎和之  
 太田 薫  
 井出恵子  
 細江毛玉  
 森山夕香  
 飯森晴美

——同人集・岳集・青雲集から

巻頭のことば 創刊四十五周年記念号の刊行を喜ぶ。投句された誌友に感謝したい。選者である私が齢を重ねるのにも関わらず、本誌に老年、壮年、さらに青春の気風が混然と一体となり満ちている。これは選者である私の力ではない。「岳」を盛り上げてくださる一人一人の誌友の魅力である。ありがたいと思う。俳句の魅力は齢相応の魅力などというわかり易いものではない。若い日にわかりきったことが、そうであったのかと齢をとってますます不思議になる。年齢を忘れて不思議さに目覚める魅力であろう。

春雷の魅力——わが青春の大江とは世代を超えている

春の雷我が青春の大江かな 小林 貴子  
大江健三郎は「春の雷」だという。木の芽起しの雷である。老いにも若きにも目を覚まさせる。八十代の私には、大江が大学新聞に犬殺しのアルバイトを「奇妙な仕事」と題し書いた二十二歳の日から地震と原発に触発されて描いた最後の小説「晩年様式集」まで、同時代「われらの時代」の文学者であった。私より二十歳余り若い小林貴子も「我が青春の大江」とは小林の早熟であろうが、大江自体が持つ世代を超えた魅力であろう。戦後の日本が生んだ最高の小説家が晩年に民俗学の柳田国男を念頭に、日本の地貌への関心を深めたことに私は感動している。長くなるのでこれはこれまで。

かくれんぼ春野にかくれどころなし 古畑 恒雄

ぎりぎり明るく詠う。身を隠す藪も林もない。わが身ひとつが春野に置かれ、時に隠れたくても何も無い。幼い日にかくれんぼをして遊んだ。その友達もいない。かくれんぼ自体がもうできない。大方の人生をやり尽し、見尽した感慨であろう。ステージが「春野」であることが作者の前向きな、苦勞の果てに身に付けた智慧である。

もの芽の我が方寸に満ちにけり 久保美智子

穏やかな句であるが、意欲十分。心中に芽吹かんとものの芽が芽めいている。結構であるが、どこか、自分を鼓舞している、元氣付けている。作者はこんな風に生きて来たのである。本誌では一志貴美子と高校同期の努力家である。

春キャベツ揉むやひらめく突破口 依田 ひろ

活力がある。厨で春の冬越しキャベツを揉みながら、ここを切り抜きたいと閃きの予感を持った。いけると「突破口」を擲んだものか。体を動かして活路を見つける現代知性派。木の根明く無縁仏のごと林 三品 吏紀

北海道の放置された原野をイメージしたものか。丸く雪解けが始まる林が「無縁仏」のようだとの比喩は鋭い問題提示だ。所有者による利権で雁字搦めになった本州の森林とは違う。地貌を凝視した句である。

白波の手をつなぐやう難祭 小宮山秀子

明るい海辺の難祭。一望できる海岸線には次々と白波が煌き連なる。「手をつなぐ」の比喩が幼い女子の弥生の節句に相応しい。母性の優しさに満ちている。

蠶や肩竦ませて嶽並び 児玉 君子

伊那谷在住の作者。大陸からの黄砂が降る。山国の先鋒競う連山が「肩竦ませ」とは、いまだ寒さが厳しい風貌を見せている。春はこれから。作者の沈着な気持が伝わる。

庫裏に干す大き組板涅槃の日 山崎 妙子

釈迦入滅の旧暦二月十五日の法会が済んだものか。大勢に料理を施すために大組板もフル回転であった。裏方の組板に着眼したところが作者の優しさであり、ユニークなところ。

流木は木霊の木乃伊春を待つ 水谷 亮一

川や海に打ち寄せられる流木を木の精霊の木乃伊とは穿った見方である。芽吹くことはなくとも、春には潤いが戻るのであるうか。

今月の秀句

初桜まぐれの力疑はず 岩上 諒磨

これが若さである。「まぐれの力」が出る。不意なるもの、まぐれこそ渾沌を切り拓いてゆくものだ。理屈がない。勤が動く。薄い生き方である。初桜を捉えたところにも、鋭い感受性が生かされている。三十歳になったばかりの、むしろ老成した落ち着きが驚きである。

耕耘機古女房の如きかな 工藤 貢

よく畑仕事をこなしてくれた耕耘機。「古女房」の喩が泣かせるではないか。人情家貢が健在。

雪霏々と大鍋で炊く鍋こわし 横地 妙子

「鍋こわし」とは海のカジカの仲間。頭部にトゲがあり、鱗が大きい。風貌はグロテスクであるが、鍋料理になると美味で、突つく箸で鍋を壊してしまうという。北海道には途方もない物語になる魚がいるものである。

鴨帰る川は立ちどころに眠し 市原 啓子

春に鴨が北へ帰る。冬の間、川は鴨で一睡もできない忙しさ。賑やかな鴨が飛び立った途端にとっと疲れが出て、川もぐったり。自然の川はなんと現金なことよ。

雪解風仲人口といふ言葉 望月 秀子

「仲人口」とは媒酌人が両方を立てるための口の巧さという。江戸時代以来の町人社会での人情が滲んだユーモラスなことは。雪解けが始まる春到来の時期、仲人は忙しくなる。

雪嶺集・前山集から推薦候補作をあげる。

戸隠山や春の根雪の芯真白 堤 保徳

太棹の水をみなに気魄龍天に 満田 光生

薄氷に水走りゆく別れかな 遠藤 靖子

越後晒雪穢すなく雪に載す 金井 光

天国への入口のやう春雪嶺 米山 節子

おぼろなり道玄坂の蛇屋の灯 小松 市子

糞屋の神棚に笑む土雞 沼井由紀枝 小林 邦子

玲瓏れいろうと囁ささずり容いれて牧まの木き々々  
つくし摘つみ眼めはほ悦えつの幕まくら仏ぶつ  
女性じょせいデー集じひのあとの芹せり菜な飯い 星 村田 朋美  
明子

春の蜘蛛とは好奇心の塊りか——一つの発見がある

春の蜘蛛はるのくまなり全ぜん身しんの好こう奇き心しん 田村 道子

好奇心こそ生き甲斐のペンネーム。春になり、いち早く動き出すのは蜘蛛。出没自在だ。蜘蛛の体形からして妖しい。眼も脚もねばねば、どこからか光を出し体色はカラフル。蜘蛛を眺めていると、俳句が湧いて来る。

ゲルひとつ赤子あかこ眠ねむるや霧よなぐもり 金子 圭子

モンゴルのパオ(包)。遊牧民の天幕を張った家屋だ。赤子がすやすや。外はよなぐもり。定住しないで、移住する遊牧民は大陸への漂泊の民とは違う。夜は降るような星空の下で暮らし、地球民にして、宇宙的な考えを持っているのである。時間の観念が薄いか。よくいえばこせこせしない。赤子はどんな人生を送るのであるか。

今月の秀句

ミサンガをきつく結ゆはへて競漕きょうそうす 篠遠 早紀

きつく手首てくわに巻まくお洒落しやれつなミサンガ。カヌーやカヤックの選手の縁起物。スポーツは実力の世界ではあるが、偶然を味方につけないと勝てない。神頼みなのが愉快ではないか。作者は二十代の大学院生。玉葱の如く髪結かみむすひ汐干しほひ狩かも愉快。玉葱のように頭に載せた髪かみの形には遊びがある。余裕である。

囁ささずりや一いつ直ちよく線せんの脳のう神しん経けい 増田 義幸

囁を心地よく聞いている句である。「一直線の脳神経」とは、端的な素朴ない方である。あれこれ理屈をいわない、脳にびびと来る。若者言葉を投げだしたような作に明るさと力が感じられる。四十代後半、作者は働き盛り。

料峠りょうとうや河原かわらの石いしは皆羅漢みならかん 橋本 幸篤

仏心があれば、河原のごろた石も羅漢に見える。春寒くはまだ内省に向く季節。手応えがある句だ。伊豆高原在住、作者は七十歳代半ば、ここで一踏ん張りを期待したい。

小ちさき闇やみ携たづなへて藤わづらぶら下さがり 手島 互

藤を凝視しながら、離れて藤を大観している。眼を近づけるだけでは気付いても全体像が描けない。距離を置くことである。その自在さにより、相対感(比較する視点)を捉えることができる。

サンマロや黒目くろめ覆おおえる春はるの海うみ 二木 暖

サンマロはフランスの北西部、イギリス海峡に臨む港町。城壁が美しい町。フランス哲学を勉強に仙台から留学した作者は二十代はじめ。少し冷たい春の海、「黒目覆える」に初めて見る異国への内心の躊躇する気持が感じられる。世界は広い。ともかくがんばれ。ビュニャールしづ子さんとも交流ができ、私もはっとしている。

日ひを好このむ雪割ゆきわり一華いちげも夏眠かみんする 土屋 隆

雪割一華は早春の花。花卉のような萼が淡い紫。清楚である。夏は葉が枯れ、冬眠ではなく夏眠が愛らしい。木の下など涼しい環境がいいとか、なかなか贅沢な山野草である。

類たぐい齢れいの俘虜ふりよ冬蜂ふゆばちに然さも似にたり 百瀬石清子